SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

大室山火山周辺の火山群

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 斉藤, 俊仁 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025877

静岡地学　第13号（1968）

大室山火山周辺の火山群

斉　藤　俊　仁

はじめに

伊東の南7,5 kmにある美しい円錐形をした大室山は，その周辺の10数この火山と共に伊東市中南部の変化に富んだ地形をつくっている。

これらはおよそ1万年前から活動した火山で，最も新しいものは約1,500年前に活動したと推定されている。しかし，これらの火山の活動の順序と年代については明らかでない点が多いため，筆者は昭和42年度静岡大学卒業研究として研究したので，その結果をここに報告する。

本研究にあたり，野外調査と結果の考察に終始御教示いただいた静岡大学地学教室の鮫島輝彦，黒田直の両先生に深く感謝する。

1．地　形

調査地域は，北は伊東西方の馬場・平，南は赤沢，西は遠笠山・丸野山，東は海岸線に至る地域である。

本地域の南西部に位置する丸野山・大幡野・岩ノ山・孔ノ山・矢筈山・伊雄山（いゆうざん）・台ノ山は，遠笠山が北東方に流した溶岩の斜面に噴出して，北西－南東方向に興味深く連なり，本地域で最も目立った高まりを形成している。

次に高いところは，本地域北西のかなり開析された丘陵地である。この丘陵地は，基盤のいわゆる湯ケ島層群およびその上にのる宇佐美火山溶岩からなる残丘である。

このように，ほぼ北西－南東，北東－南西にのびる2つの高まりの東側には，城星（じょうぼし）・梅ノ木平・鉢ケ窪・小室・大室などの小火山によってつくられた溶岩台地が広がっている。

2．地　質

大室山周辺には10を越える火山があり，玄武岩質のスコリアと溶岩からなるものと，石英安山岩質の溶岩ドームからなるものに大別される。

(1)　**基　盤**：伊豆半島全域でいわゆる湯ケ島層群が基盤をなしているが，本地域中西部にはこの地層が広く露出している（図1）。この地層は，プロピライト・安山岩質凝灰角礫岩・粘土質変質帯からなり，伊東西方の鎌田・八代田（やしろた）・奥野・十足（とおたり）・池方面でみられる。また，吉田西方でもみられる。基盤は東へ傾斜しているものと考えられる。

(2)　**天城火山**：大室山西方および十足北西の標高400 mの丘陵では，湯ケ島層群のすぐ上に安山岩質

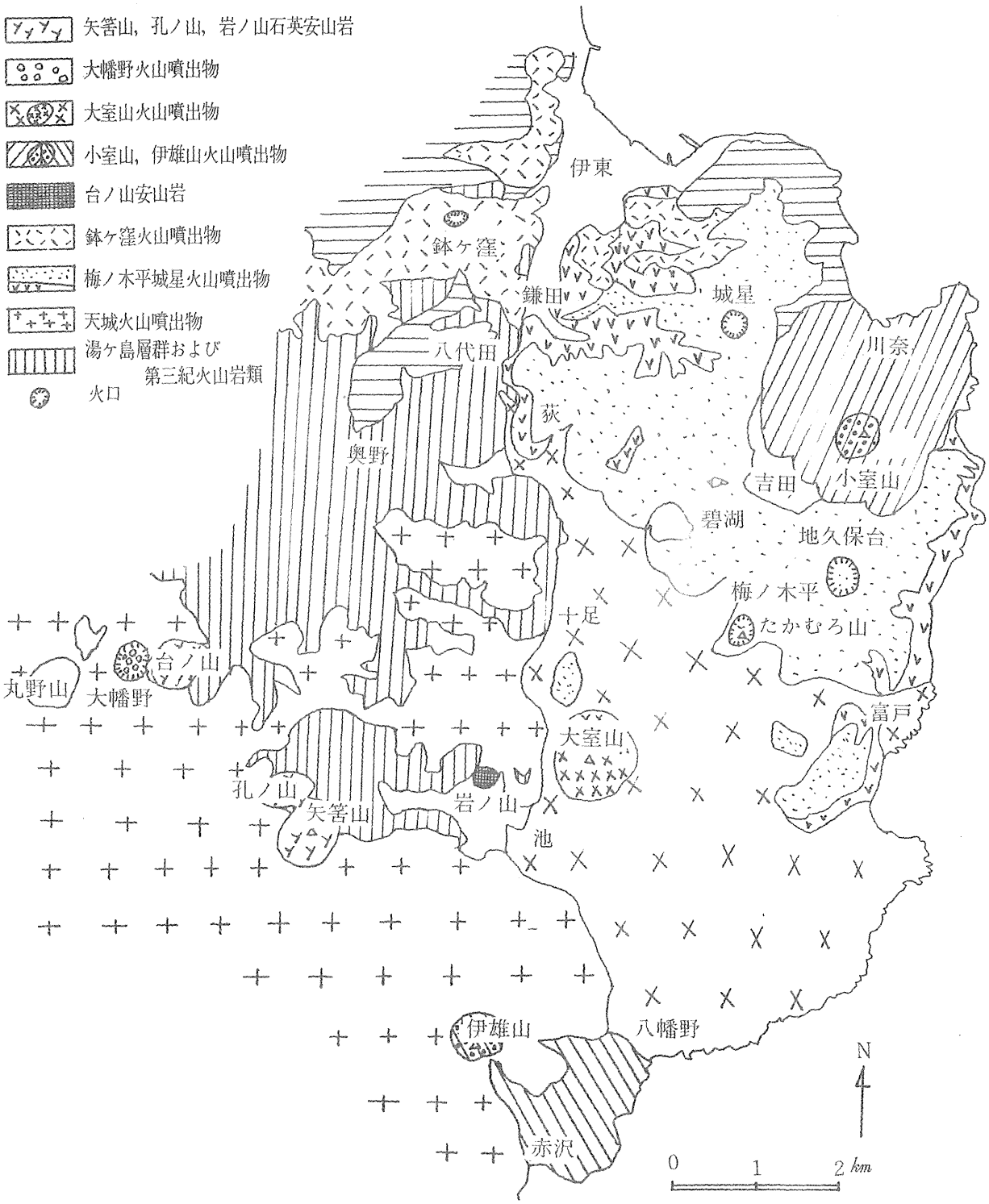


図 1. 大室山火山周辺の地質図

溶岩，玉ねぎ状構造をもった岩塊を含む火山灰層がかなりの厚さでのっている。これらは天城火山の溶岩および火山灰であり，天城火山の最後に活動した遠笠山の溶岩は，矢筈山が噴出した斜面を形成している。

(3) **城　星**：城星の競馬場跡付近に噴火口をもつスコリア丘である。活動の動の初期に玄武岩質の溶岩を流し，後にスコリアを噴出した。このスコリアのさらに上には鉢ケ窪火山のスコリアがのってお

り，活動は鉢ケ窪より古い。開析の度合からみて，おそらく梅ノ木平と同時期に活動したと考えられる。

(4) **梅ノ木平**：地久保台に噴火口をもつ火山で，スコリア丘を有する。“たかむろ山”を１つの火山と考えると，梅ノ木平火山は玄武岩質の複合火山である。

(5) **台ノ山**：池部落の北端にあり，直径５㎜大の石英外来結晶を包有する輝石安山岩の小さな溶岩ドームである。山麓では，大室山スコリア層が稜線にそって堆積していることから，大室山よりは古い火山であると考えられる。

(6) **鉢ケ窪**：伊東の裏山にある馬場ノ平東端の丘陵に噴出した火山である。火口付近には玄武岩質のスコリアがかなり厚くみられるが，溶岩は流れていない。このスコリアの上下に，富士火山灰が堆積している（久野，1954）。

(7) **小室山**：玄武岩質のスコリア丘と溶岩からなる火山である。山麓の露頭では溶岩の上にスコリアが，さらにその上に大室山のスコリアが，のっている。大室山スコリア層の上には，カワゴ平火山の噴出物である軽石と黒曜岩片がみられる。

(8) **大室山**：海抜 581 ｍの大室山はこの地域のシンボルで，玄武岩質のスコリア丘とその両側にもりあがった２つの溶岩泉丘からなる。北流した溶岩は川ぞいに八代田まで流れ，東流したものは先原（さきばら）台地を形成した。広大な先原台地の溶岩の下には厚く大室山スコリア層が堆積しており，溶岩が流出する前に噴火があったことを示している。また，大室山スコリア層の上部にはカワゴ平火山噴出物がのっている。

(9) **伊雄山**：八幡野西方２㎞のところにある玄武岩質スコリア丘と溶岩からなる火山である。活動は大室山や小室山に似ていたと考えられる。付近の露頭で２枚の溶岩がはっきりみられ，２度にわたって溶岩の流出があったことがわかる。

(10) **丸野山**：岩ノ山西方約 1.5 ㎞にあり，玄武岩質のスコリア丘を形成している。このスコリアを大幡野火山のスコリアが被っているから，この火山の活動は大幡野火山より古いと考えられる。

(11) **大幡野火山**：この火山は，異質岩片を含むきわめて特徴のある玄武岩質のスコリアからなる。火口は，明確には定められないが，岩ノ山の西側に隣接する小丘陵のあたりに直径数百ｍの規模をもっていたように考えられる。噴火は大規模だったようで，粗粒の火山

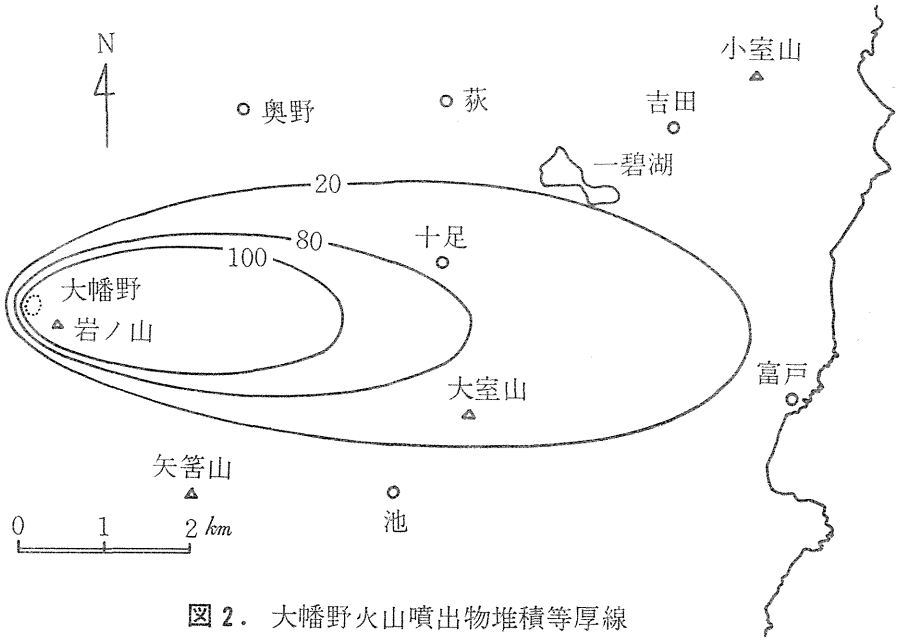


図２． 大幡野火山噴出物堆積等厚線

礫をほとんど真東に海岸近くまで飛ばしている（**図2**）。

(12) **岩ノ山・孔ノ山・矢筈山**：これら3つの火山は相接近した石英安山岩質の溶岩ドームで，同源と考えられる異質岩片が石英安山岩中にしばしば包有されている。相互関係は不明であるが，岩相がわずかに異なるのみであるから，これらの山はおそらく同時期に活動したと考えられる。

(13) **カワゴ平火山**：本地域外の，天城山頂の白田峠と万三郎岳の間，海抜1,100 *m*に火口をもつ流紋岩ないし石英安山岩からなる火山である。この火山の活動の年代は，軽石質噴出物中の“神代杉（じんだいすぎ）”からC^{14}法によって2,830±120年前であることが知られている（鮫島，1966）。黒曜岩片を含有するこの特徴ある軽石質噴出物は，西海岸の松崎と東海岸の稲取を結ぶ線よりも北の地域を広く被っている。このためにカワゴ平軽石質噴出物の追跡は，2,830±120年を境とする新旧火山の識別を容易なものにする（鮫島，1966）。

3. 火山活動史

梅ノ木平火山は，富士山麓からずっと追跡することのできる富士火山灰を厚いところでは数*m*も挾んでいる（久野，1954）から，その活動は富士山と同じくらい古く，今から1万年前と推定できる。城星火山もおそらくこの時期に活動したであろう。これら2つの火山は，本地域で最も古いものと考えられる。

台ノ山溶岩ドームは，山体の上に大室山スコリアをのせているので，大室山よりも前に活動したと考えられる。

鉢ケ窪火山がほぼ東に飛ばしたスコリアは，城星スコリアの上にのっている。また，伊東の南西3.5 *km*の道路にそった露頭で，鉢ケ窪スコリアが富士火山灰と他の火山灰の混合層の間にみられる（久野，1954）から，鉢ケ窪火山も富士火山と同時期の約1万年前に活動したと推定される。

小室山火山は，溶岩の上にスコリアをのせている。小室山スコリアの上には大室山スコリアとカワゴ平軽石質噴出物がみられるのみであるから，小室山火山の活動は鉢ケ窪火山より新しいと考えられる。

大室山火山は，天城ロームと梅ノ木平スコリアの上にスコリアおよび溶岩を噴出し，スコリアを遠くへ飛ばして小室山スコリアの上にのせていることから，その活動は小室山より新しいと考えられる。大室山付近では，カワゴ平軽石質噴出物含有層が大室山火山灰層の最上部に堆積している。このことは，カワゴ平火山の活動と大室山火山の最末期の活動が重複して行われたことを暗示する。また，吉田のジンジ山遺跡発掘の際，厚さ15～20*cm*の“パミス”層の直下にあるローム層中から縄文中期（約4,000年前）の土器片が発見された（伊東市教育委員会，1958）。しかし，この“パミス”は実は軽石ではなく，その層厚と外観から大室山スコリア層であることが，大室山スコリアと大幡野スコリアを追跡しているうちにわかった（**図3**）。大室山は，縄文中期以後も活動していたことは明らかであると考えられる。

大幡野火山のスコリア層はカワゴ平軽石質噴出物を被い，この軽石質噴出物の下には大室山スコリア層がみられるので，大幡野火山の活動はカワゴ平および大室の両火山よりも新しい。

矢筈山・孔ノ山・岩ノ山は先に記したようにほぼ同時期に活動したと考えられるが，岩ノ山が放出したパン皮状火山弾が大幡野火山のスコリア上にのっているから，これら三山の活動は本地域で最も新しい。

本地域の火山活動のおおよそは，**表1**のようにまとめられる。

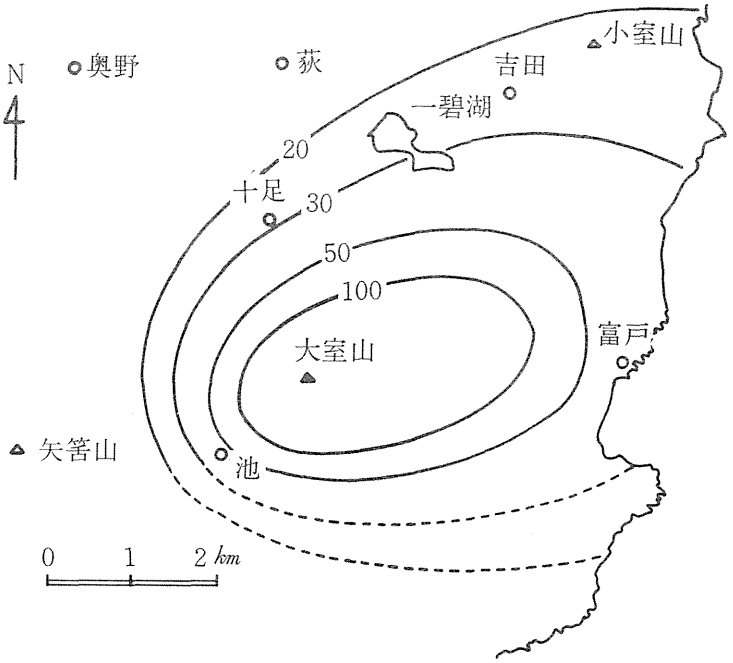
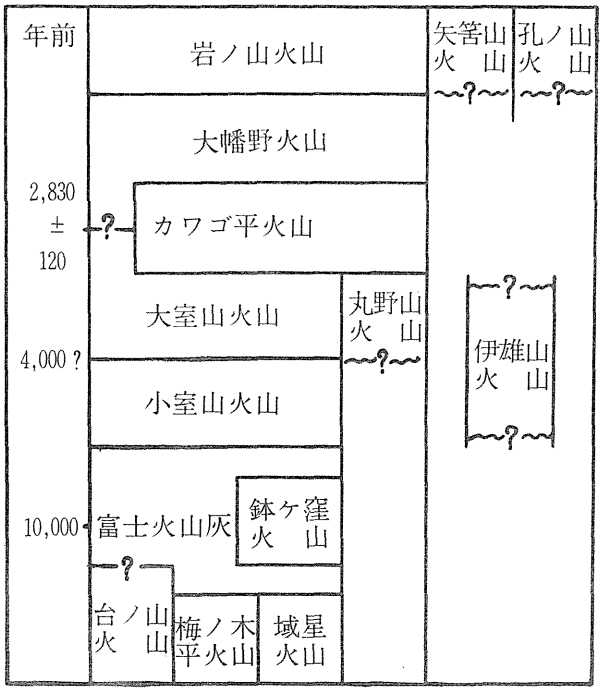


図3. 大室山火山灰堆積等厚線

表1. 大室山周辺小山火群活動史



引用文献

伊東市教育委員会（1958）：伊東市史，資料編.

Kuno, H. (1954)：Geology and petrology of Omuro-yama volcano group, North Izu, J. Facul. Sci. Unjv. Tokyo Sec. II, 9, 241 − 265.

鮫島輝彦（1966）：伊豆半島の地学案内，静岡県地学会資料No. 9.

（伊東市立東小学校）